



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

復活節第3主日 B年(2024年4月14日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 3章13—15、17—19節

第二朗読：ヨハネの手紙一 2章1—5a節

福音朗読：ルカによる福音書 24章35—48節

平和

「あなた方に平和があるように」(ルカ24章36節)に注目してください。

復活したイエスさまは、弟子たちに会う際には「平和があるように」と呼びかけます。

福音書はギリシア語で書かれていますから、「アウトイス エイレネー」となっています。直訳すると「彼らに平和」となります。日本語では「あるように」と、言葉をおぎなっていますね。

細かいことかもしれませんが、「平和があるように」と日本語にしてよいのだろうかと思えます。まるで、弟子たちには「平和」がないかのようです。それで、復活したイエスさまが平和を与えてくださるような印象を受けてしまいます。

確かに、死者の中から起き上がらせていただいたイエスさまは、神のいのちに満たされています。神のいのちに満たされているとは「平和」な状態です。ですから、復活したイエスさまが「平和」を分け与えるとも理解できるでしょう。ご自分の中に満ちている平和をも、すべて弟子たちに与え尽くすイエスさまの愛のわざとも言えるでしょう。

しかし、「あなた方に平和があるように」は、あいさつの言葉なのでは？ と思います。

ヘブライ語で「シャローム」と言います。これは日常のあいさつです。人と人が出会うとき、かならず「シャローム」と声をかけ合います。今でもイスラエルではそうです。日本語の「こんにちは」の意味でしょうか。「シャローム」がアラビア語になると「サラーム」となるそうです。アラビア語の「サラーム」が語源となって、インドネシア語では「サラーマツ」と言うのだ

と聞いたたことがあります。

人と人が向き合うときの第一声が「シャローム」、すなわち「平和」なのです。とても素敵
なあいさつです。

復活したイエスさまは、「シャローム」と、弟子たちに声をかけるのです。それは、イエス
さまが弟子たちを人間として認めているからです。イエスさまは弟子たちと向かい合いたい
のです。怖くなって逃げてしまった、いわばイエスさまを裏切ってしまった弟子たちに向かっ
て、優しく穏やかに「平和」と呼びかけます。

しかも「平和」、すなわちギリシア語の「エイレネー」は、イエスさまの復活の後に登場す
る言葉です。この点も興味深いですね。

以前、ミサの式文の中に「平和」という言葉が何回登場するかを、子どもたちと一緒に数
えたことがありました。多くの場合、ホスチアがご聖体に変化してから、式文に「平和」が
登場します。「平和」は、復活したイエスさまとともにあるのです。この事実は、子どもたち
にとって大きな発見でした。

教会の中には「平和」が満ちています。それは、ミサの中でまず最初に、教会に「平和」
を願うからです。「平和のあいさつ」はミサに集った人々が、イエスさまとともに「平和」を
お互いに確認するジェスチャーなのです。こうして、ミサから派遣されていく人々は、イエス
さまと同じように「平和」、「平和」と声をかけながらこの世界を生きるようになるのです。



「エマオの晩餐」カラヴァッジオ